

みんながゆっくりに集える 島のカフェを目指して奮闘中

佐島と私たちの出会い

こんにちは。book cafe okappaの鈴木と武田です。私たちは、2017年4月に佐島に引っ越ししました。私たちはもともと友人だったわけではなく、それぞれが個別に佐島と出会い、佐島に惹かれ、引っ越しを決めました。

鈴木は栃木で生まれ、大学進学を機に上京しました。もともと、瀬戸内の島々を巡ることが好きだったこともあり、たまたまネットで検索してヒットした佐島の古民家ゲストハウス汐見の家に宿泊したことで、佐島と出会います。佐島で過ごした数日間、旅をしているより暮らししているような感覚を覚え、佐島への引っ越しを決めます。武田は愛知で生まれ、就職を機に上京しました。たまたま旅友達の紹介で古民家ゲストハウス汐見の家のオーナーと東京で出会い、開業準備に行くオーナーについて行き佐島と出会います。もともと暮らしをつくることに興味があり、佐島で暮らしをつくってみたいという好奇心で、佐島への引っ越しを決めます。引っ越しの半年前に古民家ゲストハウス汐見の家のオーナーの紹

介で東京ではじめて会いました。佐島でやりたいこと、暮らし方が驚くほど同じで、意気投合し、チーム「okappa」を結成します。この頃から、ブックカフェを開きたいねという話をしていました。

瀬戸内に浮かぶ佐島について

佐島のある上島町は、愛媛県北東部、広島県との県境に浮かぶ7つの有人島と、18の無人島からなる離島の町です。人口は上島町全体で約7000人、佐島は約500人です。私たちが引っ越してきた時、佐島には簡易郵便局と古民家ゲストハウス汐見の家があるのみでした。昼間は島外に働きに出る人が多く、とても静かで穏やかな空気の流れる島です。



青空の佐島



柑橘の木に囲まれてお花見

book cafe okappaがオープンするまで

なぜブックカフェを開こうかと思ったのか。もともとは、人が集まる場所をつくりたいという思いが出発点でした。地元の人と旅行者が緩やかに交流できる場になったら嬉しいなとぼんやり想像していました。島にゲストハウスができてから、旅行者が佐島を訪れるようになりました。今まで島民しかいなかった場所に、他者が入ってくるというのは大きな変化で、地元の方もその変化を楽しんでいるようでした。旅行者と気軽に交流できる場があると楽しいよねという地元の方の声がちらほら聞こえたこと、もともと旅行者だった私たちも散歩の途中でコーヒーを飲みながらゆっくりできる場所があったらいいなあと感じていたことから、カフェを計画しはじめました。そこに本の要素が加わります。もともと私たちは古本屋さんが好きでした。本に囲まれた空間は落ち着きますし、店主の個性が反映された本棚を眺めていると、普段自分では選ばないような本の思わぬ出会いやワクワク感があります。また、1冊の本を読みきるくらいのカフェでゆっ

book cafe okappa

鈴木 彩美
武田 由梨

